たくしんNEWS

新北風（みーにし）号

2026年（令和８年）11月号 vol.302

拓伸会［拓南グループ］

拓南本社株式会社
拓南製鐵株式会社
拓南商事株式会社
拓南製作所株式会社
株式会社西原グリーンセンター
拓伸商事株式会社（大阪）
拓伸商事株式会社（福岡）
株式会社薩南物産
拓鐵事業協同組合

INDEX

2 TOPICS
翁長氏の副知事就任を新聞報道／全国産業安全大会（札幌）に6人参加／コンプライアンス説明会実施／電話応対コンに8人挑戦／拓伸会が熊本県に1000万円寄付／第3回フットサル大会開催／ラジオ体操優良団体表彰／本社と西原GCが合同BBQパーティー／北海道へ社員研修旅行／県社会福祉協が古波津会長を表彰 etc.

8 連載「拓南余話」㉚

【新北風】秋から初冬頃にかけて吹く北風。冬の訪れを感じさせる。『沖縄語辞典』（研究社）より

拓伸会会報（隔月発行）
〒900-0025
沖縄県那覇市壺川３の２の４［拓南ビル３F］
拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会
TEL.098-831-8228　FAX.098-832-0586

翁長政俊氏が副知事就任

県政の多分野を所管

沖縄県議会は10月9日の本会議で、翁長政俊氏を副知事とする人事案を全会一致で可決し、同日、古謝玄太知事が辞令交付を行い、翁長氏を任命した。翁長副知事は、知事公室、企画、農林水産、文化観光スポーツ、土木建築、出納事務局、各委員会など多分野の連絡調整を担う。任期は２０３０年10月８日まで。

辞令交付式で古謝玄太知事は「県と経済界、県と国などのつなぎ役として、県行政の発展に尽力してほしい」とあいさつした。

翁長副知事は、マスコミの取材に対し「経済政策や離島振興、基地負担軽減など沖縄が直面するさまざまな課題の解決に全力で取り組みたい」「経済界が主導するＧＷ２０５０プロジェクツは基地跡地利用が中心だが、跡地利用には返還が必要だ。一日も早く返せるものは早めに返還してほしいと日米両政府に求めていく」と抱負を述べた。

10日付の地元2紙は、人物像を紹介する囲み記事でも翁長副知事をそれぞれ取り上げた。『沖縄タイムス』は、「人物地帯」欄の書き出しで「政治の世界に飛び込んでから40年以上。県議や那覇市議、自民党県連会長として辣腕を振るってきた保守界の重鎮が、歴代最年少知事の古謝玄太氏を支える」と紹介した。

一方、『琉球新報』は、「ひと」欄で「小渡三郎氏から教わった琉球王国時代の政治家・蔡温の言葉を励みにしてきた。『褒められもし、そしられるもするのが世の常』。怒られながらでも前に進んだ方が人生は面白い―。熟練の政治折衝力を全面的に発揮し、県民福祉の向上へ、職務にまい進する構えだ」と締めくくっている。


拓南友の会のスナップ

拓伸会の皆さまへ

ところで、翁長副知事は、拓伸会の役職員にメッセージを寄せてくれた。

「副知事に就任し、身の引きしまる思いです。古謝知事を支えて頑張る所存です。沖縄県が抱える課題解決に全力で挑みたい。特に沖縄経済の振興に注力して取り組んでみたいと考えています。これまで、拓伸会の皆さまのご支援ご協力に感謝いたします」

10月10日付の地元2紙に掲載された記事は2頁参照。

なお、翁長名誉顧問は拓伸会を9月30日に退任した。

《2頁上段へ》

しっかり情報共有し ゼロ災1000日を

令和8年安全衛生大会　薩南物産

拓伸会の県外拠点のひとつである薩南物産（鹿児島県鹿児島市谷山港）は9月5日、令和８年安全衛生大会を鹿児島市内のオロシティーホールで開催した。役職員のほかに、拓南本社の長嶺巧専務、拓南商事の川上哲史社長、拓伸商事（大阪）の大城秀政社長、拓伸商事（福岡）の安東秀徳専務、安全衛生担当者を含め、42人が参加した。

大会は、台風が接近して開催が危ぶまれたが、無事に開会できた。

席上、古波津昇社長が次のように訓示をした。

「日頃から尽力していても、事故は起きる。偶然が重なるケース、基本動作や基本行動を怠ったケースなどさまざまだ。だれ一人、事故を起こしたくて起こしているわけではない。決められたことを面倒くさがらずに守り、事故をなくしてほしい。薩南物産は、拓伸会の中でもかなり多岐に渡った業務をしている企業だ。各々の業務の中でしっかり情報を共有して、皆さんのゼロ災害、グループ全体でのゼロ災害１０００日を達成できるように進めていただきたい」

古波津社長が「拓伸会の中でもかなり多岐に渡った業務をしている」と述べたのは、拓南製鐵が生産した異形棒鋼やグループ各社が生産した各種資材を販売し、鹿児島県内で収集した鉄スクラップを加工し製鋼原料として拓南製鐵へ販売しているからだ。

続いて、拓伸会安全統括室長である拓南本社の長嶺専務が講話をした。



長嶺専務は、拓伸会基本方針であるゼロ災害１０００日達成に向けた取り組み、５Ｓ活動、指差し呼称、保護具、ヒヤリハット、ＫＹＴ活動、5項目の基本活動の意義などについて解説した。

指差し呼称などを徹底

その後、高江洲力常務が、薩南物産の令和7年活動状況の報告を行い、「休業災害を含めた事故報告が前年比15件増となった。ヒヤリハット（キガカリ）報告は１００件増となり、多く報告がなされた。指差し呼称率も上がってきており、アンケートによって確認できた」とデータ分析した。

また、営業統括部原料課の崎山浩志課長代理が改善活動内容を報告した。

「第2ヤードの本格活動による広範囲の作業と鉄筋の出荷量が上がるとともに、事故が多く発生している状況を全社員が共有し、指差し呼称と安全基本行動を徹底することでゼロ災１０００日を目指していく」

そして、拓南商事の川上社長が大会を講評した。

《2頁下段へ》


田邊専務


川上社長（拓南商事）


古波津社長

《1頁上段囲みより》

10月10日付の地元2紙は、沖縄県副知事に前日就任した翁長政俊氏について次のように報道した。

『沖縄タイムス』
1頁記事（右上）

『沖縄タイムス』の
「人物地帯」（右下）

『琉球新報』
2頁記事（左上）

『琉球新報』の
「ひと」（左下）


沖縄の課題解決 全力で
翁長副知事に辞令交付


「県の課題解決へ全力」
翁長氏 副知事に就任


人物地帯
副知事に就任
翁長政俊さん
重鎮、最年少支える


ひと
副知事に就任した
翁長政俊さん
政界経験をフル活用

《1頁下段より》

「キガカリ、ヒヤリハットを多く出して、前向きな対策をみんなで考えながら実施しており大変素晴らしい。ケガは、発生時に対策し、周知されていると思うが、安全衛生大会で再度報告し、潜在意識に残すということが大変重要だ」

大会は、田邊雄二専務によるあいさつで閉会した。

「台風など悪天候の中、遠方より、グループの方々も多数参加してくださり、感謝を申し上げる。今回の安全衛生大会を通じて安全が最優先であることをしっかりと胸に刻んで、今日学んだことをこの大会で終わらせることなく各部署へ持ち帰ろう。そして、さらなる安全で健全な職場づくりに取り組み、全員でゼロ災害を目指していこう」

司会は、営業統括部原料課営業班の久留蕉太郎班長が務めた。


ゼロ災1000日に向けて指差し唱和＝会場・オロシティーホール

＊「トピックス」欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとします。

TOPICS

Safe work TAKUNAN

拓伸会から6人参加
全国産業安全衛生大会 札幌大会

ヒヤリハットなど活動事例が参考に

拓南本社専務（安全統括室室長） 長嶺 巧

9月

全国産業安全衛生大会の分科会にて、活動事例を確認した。

ヒヤリハットについては、項目を明確にして、内容を入力し、データベースを活用する仕組みとなっている。それらの結果をもとに、分析をし、リスクアセスメントを行い、対策を実施し、その取り組みを、皆で共有するシステムを構築している。その結果、ヒヤリハット収集の維持、向上につながっている。

「大地にみなぎる 安全・健康 決意の力」をテーマに第85回全国産業安全衛生大会（主催・中央労働災害防止協会）が9月16日から3日間、北海道札幌市の「北海きたえーる（総合集会会場）」「札幌コンベンションセンター（14分科会会場）」で開催された。同大会は毎年、全国各地の企業から1万人余の安全衛生担当者が集う。今回の札幌大会に、拓伸会からは6人が参加した。感想を寄稿してもらった。

コンプライアンス説明会を実施

拓伸会

8月


災害事例を交えた長濱氏の講演を聞く

拓伸会は8月3日、コンプライアンス説明会を拓南商事2階会議室で実施した。

安全衛生担当の各社役職員が出席し、労働衛生コンサルタントの長濱直次氏による「組織としてのコンプライアンス（法令遵守）について」の講演を聞き、グループディスカッションに参加した。

この説明会は、4月から6月までの安全パトロール、災害等の調査活動の結果から「組織として、コンプライアンスについての意識向上を図る必要性を感じる」とする報告から実施に至った。


グループディスカッションで情報交換

講師の長濱氏は、長濱労働衛生コンサルタント事務所の代表で、前年度まで拓南本社の安全統括室長を務めていた。今年度から、労働安全衛生管理に関して拓伸会と

熱中症に関しては、熱中症リストバンドの装着、50分作業10分休憩のルール、給水サポーターの現場巡回、各現場に、クーリング部屋やＡＶＡ冷却場（10～15℃の水で、5～10分の手のひら冷却）の設置など徹底した対策をし、定期的に対策の見直しをするなどの取り組みをしている。

これらの活動内容を参考にして、今後の安全衛生活動に取り組んでいきます。

印象に残った「現場力向上の図り方」

拓南本社安全統括室主任　長澤孝之


札幌大会会場で。(左から)長澤氏、山内氏、宮里氏、伊禮氏、長嶺氏、宮國氏

今回、特に印象に残ったのは、早稲田大学理工学術院の小松原明哲教授による「現場力向上の図り方」である。講演を通じ、事故や災害を防ぐためには、単にルールや手順を守らせるだけでなく、「何を守るのか」「なぜ必要なのか」「どのように行動するのか」を管理者と現場が共有し、現場自らが考え行動できる仕組みづくりが重要であると再認識した。

また、緑十字展では、現在課題となっている安全衛生に関する報告業務のＤＸ化について、展示企業から具体的なシステムや運用方法、改善につながる情報を得ることができた。

今回得た知見を自社の安全衛生活動に取り入れ、現場力の向上と業務の効率化・実効性向上につなげていきたい。

気軽に相談できる職場環境が大切

拓南製鐵安全衛生委員　宮里夏希

このたび、大会に参加し、安全衛生活動や健康づくりについて改めて考える貴重な機会となりました。

特に印象に残ったのは、女性特有の健康課題への理解支援、そしてメンタルヘルスケアについてです。

心身の変化は周囲から気づきにくいこともあるため、日頃から声を掛け合い、困ったときに気軽に相談できる職場環境が大切だと感じました。

安全衛生は、事故や災害を防ぐだけでなく、働く人の心と体の健康を守ることも重要な役割です。今回学んだことを日々の仕事に生かし、だれもが安心して働ける職場づくりに努めていきたいと思います。

また、拓伸会の皆さまと普段とは違う環境で交流できたことも、大変楽しく有意義な時間となりました。貴重な学びと交流の機会をいただき、ありがとうございました。

「どうにかしてできないか」に感銘

拓南商事常務　伊禮智之

総合集会では、コンビニを営しているセコマの丸谷保会長が「人口減少、高齢と向き合う経営」と題し、の図りかた～Ｗｈａｔ・Ｈｏｗ・Ｗｈｙをキーワードにして」と題し、早稲田大学教授の小松原明哲氏が講話をし、安全を三位一体で取り組むための手法などを視聴した。今後のゼロ災活動のヒントとなった。

「どうにかしてできない」と考えて経営してきた、の言葉が印象的だった。

各分科会では、各社の安全生に対する改善の取り組発表で共感する事例が多あり、今後の活動の参考にていきたい。

講演会では「現場力向上の図りかた～Ｗｈａｔ・Ｈｏｗ・Ｗｈｙをキーワードにして」と題し、早稲田大学教授の小松原明哲氏が講話をし、安全を三位一体で取り組むための手法などを視聴した。今後のゼロ災活動のヒントとなった。

今回参加した拓伸会各社の皆様、楽しく貴重な時間を過ごしていただきありがとうございました。今後、グループ一丸となって、ゼロ災１０００日に向け情報共有しながら頑張って行きましょう。ご安全に。

小嶺壮正さん(製作所)２位

沖縄・奄美・鹿児島 ポイントランキング

拓伸会が協賛している沖縄・奄美・鹿児島版の撮影ポイントランキングで朗報です。

サイト開設後、初回のランキング(2025年12月～26年8月投稿分)で、拓南製作所の小嶺壮正さんの写真が2位になりました。

その写真はこちらです。

同ランキングは現在、沖縄・奄美・鹿児島版のほかに東北版、関東版、四国版、北海道版があり、いずれも、各地元のスクラップディーラーの協賛で運営されているそうです。


https://okinawa-amami-kagoshima-photo.jp/photo/?code=1997034635690eb2e7988fa

◆業務委託契約を結んでいる。

拓南本社安全統括室の入稲福怜氏は「説明会では、講師の長濱氏が災害事例を交えながら講演した。その後、参加者にてグループディスカッションを行い、現在の各社の状況や活動などについて熱の入った意見交換が行われた。今後の法令遵守の活動に期待したい」と感想を述べた。

デジタル化は安全への強力な手段

拓南製作所常務　宮國正幸

今回、初めて全国産業安全衛生大会に参加し、大変有意義な時間を過ごすことができました。総合集会でのセコマ丸谷智保会長による「長く健康に働き続けられる職場づくりこそ最大の経営戦略」との講演に、深く共感いたしました。

分科会では、ＡＩやロボットを活用した危険作業の排除や負荷の可視化といったＤＸ事例について学び、デジタル化はだれもが安全に活躍できる環境づくりの強力な手段であると実感いたしました。

５日間、楽しくご一緒いただいた拓伸会メンバーの皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。当社におきましても皆様と連携し、デジタル技術の現場導入による作業負荷の軽減と、安全文化のさらなる定着に取り組んでまいります。

複数要因で熱中症リスク高まる

西原グリーンセンター支配人　山内雅之

今回、熱中症の講習会にて、発生要因や予防対策について理解を深めることができました。特に、気温だけではなく湿度や作業環境、作業時間、個人の体調など、複数の要因が重なることで熱中症のリスクが高まることを再確認しました。

また、熱中症は発症してから対応するのではなく、事前の暑熱順化や作業前の体調確認や水分・塩分補給、休憩所確保など、事前の予防対策が重要であると感じました。

今回学んだ内容を、今後の安全衛生活動に生かし、従業員一人ひとりが熱中症に対する意識を高め、作業環境の改善や適切な休憩・水分補給の徹底など、熱中症予防に取り組んでいきます。

電話応対コンに8人挑戦
5人が本選へ 1人入賞

拓伸会

9月

第42回電話応対コンクール沖縄県大会（主催・日本ICTテレコムユーザ協会沖縄支部）が9月25日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれた。予選会（54人）を勝ち抜いた30人の選手が電話応対のスキルを競った。拓伸会メンバーは8人が予選会に挑み、5人が本選に出場、1人が入賞を果たした。閉会式で、審査委員長の土方浄氏は「半数が初参加にもかかわらず、ここ数年で最も難しいテーマ（言葉を交わし、想いをつなぐ）に挑戦してくれた。応援団の皆さんにも敬意を表したい」と感想を述べた。

＊指導者を務めた拓南本社総合企画部統括課課長、参加者8人に感想を寄稿してもらった。



総括

練習過程にこそ意味がある

拓南本社総合企画部統括課課長　島袋　緑

拓伸会は、昨年に続き今年も（公財）日本ICTテレコムユーザー協会主催の電話応対コンクールに参加した。

第42回沖縄県大会においては、拓南本社業務部雇用管理課主任の石原昌一郎が審査員特別賞の栄誉に輝いた。石原の言葉選びが審査員の胸を打ったようで、相手に対する心遣いが伝わったのだと思う。

本大会は、コンクールの『毎年のテーマと問題のねらい』に沿って電話応対の内容を競うものとなっており、今年度は予選会に出場した54人の中から上位30人が競い合った。

今年は「言葉を交わし、想いをつなぐ」をテーマに、①お客様の要望を訊き正しく理解する、②①の要望に相応しい商品を案内する、③受け取りなどについて確認する、これが審査のポイントとなった。

なお、公平な審査のために出場順は当日の抽選で決定し、競技番号および選手氏名は審査委員には通知されない。

拓伸会の8人も、4月末から9月の県大会までと長期戦で電話応対の基礎から学び直し、ロールプレイングを重ねトレーニングしてきた。業務と並行して練習に励むのは、時間にも拘束され個々の負担があるのはもちろんだが、その状況下でどの選手も一生懸命に取り組み、スキルアップに努める姿勢は素晴らしかった。

指導応援は、今年もESG推進室に依頼し、花城可人室長が率先してコミュニケーションをとる一方で、共に個々の課題を見い出し指摘しながらも楽しい指導を繰り広げてくれた。

グループ展開して2年目、前回の反省を生かし課題解決に努めたが、まだまだ道半ばの電話応対教育。今回も反省点を振り返り、次回までに改善したいと思う。

参加者一人ひとりの成長を間近で見守る中で、基本的マナーの徹底はもちろん、相手の立場に立った丁寧な言葉遣いや迅速な対応の重要性を改めて感じた。繰り返しの練習を重ねることで、自信と実践力が着実に向上し、表現力や状況判断力の向上にもつながったと実感している。



拓伸会応援団の皆さん

拓伸会の目的である、「個人の成長がひいては会社の成長に繋がり、顧客満足度を上げることになる」、これはコンクールでの入賞が目的ではなく、練習過程に意味があることを申し上げておきたい。ビジネスマナーは社会人にとって必須であるが、傾聴力を養い、寄り添う心をもち、自身を見直し改善することで必ずスキルアップにつながる。参加した社員もこれを機に、これまでより少しでも変化が見られるのなら自己成長だと思う。

拓伸会は心をひとつにワンチームで挑んだが、私たち運営に携わった側も貴重な経験となった。今回の経験を基に、より質の高い電話応対スキルの育成に努めていきたい。併せて、参加者には今後の活躍を期待すると同時に、波及効果を生めるよう、引き続き意識を忘れずに対応してほしいと願う。

メールやSNSなどのツールが全盛になった現在でも、顧客や社内のやり取りで電話応対の重要性はますます高まっているように感じる。電話は必要ないとメールばかりの人でも、汲み取る力や寄り添いは文面にも表れる。接遇だけでなく、幅広いコミュニケーションのひとつとしてこの教育プログラムに取り組むのは意味があると思う。

参加した皆さん、運営に携わった皆さん、長期にわたりお疲れさまでした。大会当日応援にかけつけてくれた皆さんのエールも心強かったです。ご協力ありがとうございました。



「沖縄タイムス」
10月8日付

相手の話を聞くことが重要

拓南本社執行役員総合企画部長　上原康志

一昨年はカタログギフトの営業担当、昨年は牛タンの通販スタッフ、そして今年は花屋の店員になりました。毎回、取り扱う商材やコンクールで求められるポイントは異なりますが、共通していることがあります。

それは、お客様と会話をし相手の話を聞くことが重要だということです。相手の話を聞くことで、お客様の求めていることを知り適切な商品を勧めることができますし、またお客様の気持ちに寄り添え顧客満足度が上がります。

相手の話を聞くことの重要性は電話に限ったことではなく、取引先や従業員同士のやり取り、家族とのコミュニケーションでも同じです。

重要な勤務時間を使った学びを、自分のためにみんなのために生かしていきたいと思います。

腰が重かった挑戦で特別賞

拓南本社業務部雇用管理課主任　石原昌一郎

コンクール挑戦前の私は、電話応対が苦手で、鳴っても「だれかが取ってくれるだろう」と避けていました。練習が始まってからも、居酒屋スタッフみたいな口調（「こんちはー、ありがとうございやスッ」など）だったり、表情も強張って口が動かなかったり、苦手だわうまくいかないわで踏んだり蹴ったりでした。

それでも、花城可人部長、島袋緑課長を中心とした電コン事務局の皆さまとの練習で教えていただいたこと


百名優希氏


有銘七美氏


儀間千菜津氏


石原昌一郎氏


上原康志氏

笑顔が伝わる明るい応対

拓南製鐵製造部　儀間千菜津

事前勉強会では、言葉遣いや声のトーンを基礎から学び直すことができ、普段は交流の少ないグループ会社の皆様とお話しする貴重な機会ともなりました。

県大会では、他選手の素晴らしい応対から大きな刺激を受けたほか、他社の方々と交流する中で「拓南製鐵が好きです」と大変光栄なお言葉をいただくことができました。

また、自部署やグループ会社をはじめ多くの方が応援に駆けつけてくださり、拓伸会のつながりがより一層深まったと感じております。

これらの学びと経験を経て、普段の業務でも「顔が見えないからこそ笑顔が伝わる明るい応対」を意識し、一言ひとことをより大切にする変化が生まれました。

今回の経験と成長を胸に、今後も、お客様に安心感を持っていただける電話応対ができるよう努めてまいります。

県大会ではトップバッターに

拓南商事業務課　有銘七美

自分の癖や聞き取りやすい声のトーンなどを学ぶことができました。

県大会本番では、トップバッターということもあり、すごく緊張しましたが、練習していくうえで、ご安全に。

今回、電話コンクールに参加して、普段何気なく行っている電話対応を改めて振り返る良い機会になりました。実際、練習してみると声の大きさや話す速さ、言葉遣いだけでなく、相手の話をちゃんと聞くことで、相手に対しての思いやりを込めて電話応することの大切さを学びました。



思いやりを込める大切さ

拓南商事営業本部営業部業務課課長　高江洲革子



練習から本番まで、本社方々、参加メンバーの温かい声掛けや応援がとても励みになりました。結果は残念でしたが、スタート時から最後まで、ワンチームで電話コンクールに臨むことを掲げてがんばっていたので、今回、本当に電話コンクールに参加させていただき、いい体験をさせてもらいました。ありがとうございました。楽しかったです。


選手交流会

普段の業務では気づかぬ課題

拓南製作所営業部営業課班長　宮城直也



今回、初めて電話コンクールに参加し、普段何気なく行っている電話対応について、改めて考える良い機会となりました。

練習では、声の大きさや話すスピード、言葉遣い、相手に分かりやすく伝えることの難しさを実感しました。

また、実際に電コンに参加することで、普段の業務では気づかなかった自分の課題を知ることができました。

残念ながら県大会への出場には至りませんでしたが、今回の経験を通して、普段の電話応対にも生かし、相手に安心感を与えられる、丁寧で気持ちの良い電話応対を心がけていきたいと思います。

「少しでも改善したい」思いから

西原グリーンセンターレンジ　百名優希

元々電話応対に苦手意識があり、そこを「少しでも改善したい」という思いがきっかけで、今回初めて参加致しました。

勉強会やセミナーへの参加を通して一番苦戦した点は、今回の電話応対コンクールのテーマでもある「言葉を交わし、想いをつなぐ」を理解し、電話応対にて実践することでした。

普段の電話応対では、声のトーンや抑揚などを意識して応対はできていましたが、今回のコンクールはそれだけではなく「贈る方の想いを聞き出し、その想いを花に込める」ということをただ質問するだけではなく、共感も含めながら応対していくことがとても難しかったです。

本番までの期間、本社のサポートメンバーの方々にはたくさんのご指導とご協力をいただきました。感謝申し上げます。そのおかげもあり、初めは全くできていなかったテーマに沿った応対も徐々に改善され、形にすることができました。


土方審査委員長(右)より審査員特別賞を受ける石原氏

「想いをつなぐ」難しさ、勉強に

拓南商事営業本部営業部業務課主任　石川正人

今回、初めて電話応対コンクール予選会に参加し、最初はとても緊張しました。正直なところ、当初はそれほど参加に前向きな気持ちではありませんでした。

しかし、練習や勉強会を重ねるにつれて、電話対応はとても奥が深いものだと感じるようになりました。「ああでもない、こうでもない」と試行錯誤しながら、目の前にいない相手と声と言葉だけでやり取りし、「想いをつなぐ」ことが、いかに難しいことかを学びました。

特に、相手の声や言葉から気持ちを汲み取り、それに応えることの難しさを実感しました。また、「声に笑顔出す」ことが思っていた以に難しく、普段何気なく行っている電話対応にも、さまざまな工夫や技術が必要なだと気づきました。

今回は予選会で落選し、選に進むことはできませんでした。しかし、本選に進んだ皆さんが一生懸命頑張っている姿を見ていると、「分ももう一度チャレンジたい」という気持ちが芽生えました。

実際に、本選の翌日に勉強会で使用した資料を上一度読み返している自がいました。それだけ、今の経験が、自分の中に大き学びとして残ったのだといます。

てきたことを意識し落ち着いて臨むことができました。

今回の経験を通して、電話応対に対する意識も高まり、自分自身のスキルアップにもつながったと思います。後、今回学んだことを意し、日々の業務に生かしてきたいです。

を意識し、「1日10回以上電話を取る！」と目標を決め、日々の業務で実践していった結果、少しずつ自信がつき、「なんか楽しいかも」と思えるまでになりました。

最初はなかなか腰が重かった挑戦でしたが、審査員特別賞までいただけたことを、本当にうれしく思っています。

そして、「緊張しー」な私を最後まで明るく、そして面白おかしく支え続けてくださった電コン事務局の皆さま、雇用管理課の照喜名素子さん、田中彰人さん、中野芹音さん、直接会場まで足を運んで応援してくださった皆さま、ライブ配信を通して応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

熊本県へ1千万円寄付　拓伸会
「スピードに敬服」(木村知事)

8月

拓伸会は8月28日、熊本地震で大きな被害を受けた熊本県に1000万円を寄付した。古波津昇会長が、「一刻も早い再建を願う」と熊本県庁で木村敬知事に目録を直接手渡した。同日は、熊本地震発生から1カ月にあたった。

地元紙の『沖縄タイムス』、業界紙の『日刊工業新聞』『産業新聞』が記事に取り上げ、「県がより活用しやすい形」として企業版ふるさと納税制度(地方創生応援税制)を今回の寄付で用いたこと、古波津会長が熊本と深い縁がある(中学から大学まで過ごした)ことなどを紹介した。

記事では、木村知事が「古波津会長の思いにそった形ある復興支援に当たらせていただく。スピードと熊本への愛と行動力に敬服する」と謝意を伝えたと報じている。


熊本県の木村敬知事（右）に目録を手渡す拓南本社の古波津昇社長＝28日、同県庁（提供）

熊本へ1千万円
拓南本社が寄付
「一刻も早い再建願う」

拓南本社（那覇市）は28日、熊本地震で大きな被害を受けた熊本県に企業版ふるさと納税で1千万円を寄付した。古波津昇社長が、同県庁内で木村敬知事に直接目録を手渡した。

古波津社長は学生時代の約10年間を熊本で過ごしたという。「第二の故郷とも言える熊本の惨状に驚いた。一刻も早い被災地の再建を願う」とコメントした。


経営ひと言
復興の思い託す

▽…「先んじて動かなければ」と熊本地震発生から1カ月の日、熊本県庁で木村敬知事に寄付金を手渡したのは、拓伸会（那覇市）会長の古波津昇さん。

▽…熊本は主力の鉄筋製品の供給先だけでなく、中学―大学時代を過ごした土地。「2016年の熊本地震から盛り返してきた時に、また」と、被災の悔しさをにじませる。

▽…県のスピード感を信頼し、1000万円の寄付は「使いやすい形」として企業版ふるさと納税制度を用いた。「1日も早く元通りの生活になって」と思いを託す。（熊本）

「1日も早く元通りの生活になって」と思いを託す古波津さん㊧


義援金

▽日本磨棒鋼工業組合＝組合員15社（アズマックス、池内精工、MTK、大阪ミガキ、小木曽工業、関西金属工業所、木ノ本伸線、城北伸鉄、シルド、大一機工、太平鋼材工業、徳田練磨工作所、日鉄プロセッシング、松井磨シャフト、山下工業）から総額303万円を日本赤十字社を通して寄付

拓伸会、100万円寄付
熊本県庁訪れ目録を手渡す

沖縄唯一の電炉メーカー、拓南製鉄（本社＝沖縄市）など8社＝協同組合で組織する拓伸会（古波津昇会長）は先月発生した「令和8年熊本地震」の復旧・復興のため熊本県に1000万円を寄付した。県の裁量がより大きな地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用した。28日、古波津会長が熊本県庁を訪れ、木村敬知事に寄付金目録を手渡した。

中学から大学までの10年間を熊本で過ごすなど熊本と深い縁のある古波津会長は「学生時代のほか、県経済をけん引する『TSMC』などに納入するなど大変お世話になっている。10年前の地震でも寄付させていただいたが、今回は県がより活用しやすい形で寄付させていただいた。1日も早い復興と被災者の皆さまが元の生活に戻っていただけることを願う」と語った。

木村知事は「企業版ふるさと納税は県が主体的に活用法を選べ、古波津会長の思いにそった形ある復興支援に当たらせていただく。スピードと熊本への愛と行動力に敬服する。沖縄とともに、さらなる発展をお約束するとともに、頂いた寄付金を大切に使わせていただく」と謝意を伝えた。

木村知事㊧に目録を手渡す古波津会長

(右)「沖縄タイムス」8月30日付
(下右)「日刊工業新聞」8月31日付
(下左)「産業新聞」8月31日付

拓伸会をラジオ体操優良団体表彰
全国ラジオ体操連盟など

7月

拓伸会は、全国ラジオ体操連盟など3者が主催する「ラジオ体操優良団体等表彰」の「地方表彰」を7月10日付で受けた。そこで、拓南本社安全統括室の長澤孝之主任に寄稿してもらった。

日々の習慣を積み重ねていこう
拓南本社安全統括室主任　長澤孝之


表彰状を贈呈された古波津会長

拓伸会はこのたび、「ラジオ体操優良団体等表彰」において「地方表彰」を受けた。

本表彰は、かんぽ生命保険、NHK、NPO法人全国ラジオ体操連盟の3者が、ラジオ体操の普及・奨励に貢献した団体や個人を表彰するもので、拓南グループ各社で長年にわたり継続してきた取り組みが評価された。

各社では、社員の健康づくりの一環として、毎日の就業前に全社員でラジオ体操を実施している。1日数分の取り組みではあるが、身体を動かして気持ちよく1日をスタートできるだけでなく、社員同士が顔を合わせるコミュニケーションの機会にもなっている。

今回の表彰は、これまで参加してきた社員一人ひとりの積み重ねによる成果だ。今後も「いつものラジオ体操」を大切にし、社員みんなで声を掛け合いながら継続していきたい。毎日の小さな習慣を積み重ね、健康でいきいきと働ける職場づくりにつなげていけることを願っている。

第12回社員研修旅行
秋の北海道へ　拓伸会

9月

季節の移ろいを感じる北海道へ―。拓伸会は、第12回社員研修旅行を9月14日から3泊4日の日程で実施した。グループ各社から37人が参加した。団長は、拓南製鐵の知念正元副社長が務めた。そこで、参加した拓南本社の古波津伸氏に感想を寄稿してもらった。

大自然と歴史、最新の魅力を体感
拓南本社技術開発研究室　古波津　伸

北海道での社員旅行は、多彩な観光施設とグルメを満喫する素晴らしい機会となりました。

支笏湖の澄んだ自然や頭大仏殿の荘厳な雰囲気に触れ、エスコンフィールドや大倉山展望台、清水鉄鋼見学等、北海道ならではの歴史と最新の魅力を体感しました。

さらに、名物の鮮やかな海鮮料理を共に味わうことで会話も弾み、普段接点の少ないグループ各社の方々と自然と交流を深めることができました。この思い出を糧に、今後の業務にも一丸となって取り組んでまいります。



真夏の合同BBQ　笑顔の輪
拓南本社・西原グリーンセンター

8月

拓南本社と西原グリーンセンターは8月15日、合同バーベキューを西原きらきらビーチで実施した。そこで、参加した拓南本社の中村喜亮氏、西原グリーンセンターの大城優子課長に感想を寄稿してもらった。

すてきな絆をパワーに
拓南本社財務部財務課　中村喜亮



台風が来るんじゃないかとハラハラしていましたけれど、みんなの日頃の行いが良いおかげで見事な快晴に。心地よい海風を感じながら、無事に合同ビーチパーティーを開催することができました。

普段はゆっくり話す機会が少ない中、同じテーブルを囲んで美味しいお肉を味わったり、楽しい時間を共有したりするうちに、笑顔の輪が広がっていきました。

今年も幹事として上手く開催できてよかったです。そして、参加してくれた社員、その家族のみなさまのおかげで、とっても温かくて楽しい一日になりました。

このすてきな絆をパワーに変えて、お仕事も頑張りましょう。本当にお疲れ様でした。


西原きらきらビーチで集合

拓南本社のお声かけに感謝
西原GC統括部統括課課長　大城優子



長嶺巧専務の乾杯の合図で、拓南本社と西原グリーンセンター合同のバーベキューが西原きらきらビーチで開催されました。

普段はなかなかゆっくり話せない拓南本社の皆様とおいしいお肉、冷たい飲み物をいただきながら親睦を深めることができ、スイカ割り、かき氷があったりとご家族を交えて和やかなすばらしい時間となりました。

産業まつり　台風30号で中止
拓南ブース　設置取りやめ

10月

10月23日から25日まで奥武山公園で開催予定だった「第50回沖縄の産業まつり」が台風30号の影響で中止になった(関連事業の**「県優良県産品推奨状交付式」「守礼門プログラム2026『食』の商談会・評価会」「県イノベーションコンテスト」**は実施)。開催に向けて準備を進めてきた拓南ブースの設置を取りやめた。

地元2紙が報じた中止関連の記事の中には、産業まつりの50年を振り返り、拓伸会創業者・古波津清昇の功績に触れるものもあった。



「琉球新報」10月21日付



10月25日、アリーナ棟ステージで実施した県イノベーションコンテストに参加した皆さん

古波津会長を「大会長感謝」表彰
社会福祉の増進に貢献　沖縄県社会福祉大会

10月



「支え合い　やさしさ包む『島の宝』を守るために」をスローガンに第69回沖縄県社会福祉大会(主催・沖縄県、沖縄県社会福祉協議会など)が10月27日、沖縄コンベンションセンター劇場棟で開かれた。

席上、表彰式が行われ、拓伸会の古波津昇会長が「県社会福祉大会長感謝」を受けた。湧川昌秀大会長が「日頃から社会福祉に深い理解を寄せ、県社福協への多額の浄財を寄贈、社会福祉の増進に大きく貢献」と高く評価した。

会場には、拓伸会各社役員らが祝福に駆けつけた。

「沖縄の産業まつり」中止されど、応援の輪広がる
「産業まつり」の分まで頑張るぞ　高校生・企業コラボ商品、「離島フェア26」で



11月27～29日に開催

那覇商業高校と浦添商業高校の生徒たちが沖縄製粉、沖縄明治乳業、沖縄ホーメルの3社と共同開発した商品を「沖縄の産業まつり」で販売するという趣旨の商品完成発表会が10月20日、那覇市内で行われた。ところが、その冒頭で、司会から「台風30号の影響により開催中止」の発表があった。

やる気満々だった生徒たちは、突き落とされた気分に陥った。3年生のある生徒は「5カ月間かけて商品開発したのに販売できないのはショック」(『沖縄タイムス』記事)と肩を落とした。

落胆する生徒たちを前に、やりきれない思いにかられた県食品産業協議会の竹内一郎会長(沖縄製粉社長)は「商品は、非常に完成度が高い。他のイベントなどで商品を披露する機会を模索する」という考えを示した。

たちまち、経済人たちの厚意の輪が広がった。多くの企業が手を差し伸べた。「沖縄の産業まつり実行委員会」の古波津昇会長、役員、企業などによる関係機関への働きかけもあり、「離島フェア2026」(主催・18離島市町村、沖縄県、県離島振興協議会)への出展が決まった。もちろん、生徒の参加に向けて学校側も最終判断した。

3種類(プリン味・塩スイカ味・黒糖烏龍ミルクティー味)のサーターアンダギーなどを楽しめる**高校生・企業コラボ商品が出展する「離島フェア2026」は11月27日から3日間、那覇セルラーパーク那覇**で開かれる。ぜひ、奥武山公園へ。



沖縄の産業まつり応援マルシェ　販売機会を「分散型」で創出

ところで、「沖縄の産業まつり」は中止になったが、各企業が各地各店舗等で工夫をこらし、いわば分散型で、出店予定だった事業者を応援するイベントが行われた。

例えば、おきなわフィナンシャルグループの地域商社「みらいおきなわ」は10月26日から30日、沖縄銀行本店内の会場で「沖縄の産業まつり応援マルシェ」を開催し、今年の優良県産品を展示販売するとともに、産業まつりに出店予定だった事業者の販売機会を創出し、準備していた商品の販売を後押しした。入れ替え制で1日約10社の売り場を確保した。

みんなで「ユイマール精神」を発揮した。


県食品産業協議会
竹内一郎会長



県内企業と連携して企画・開発した商品を紹介する那覇商業高校と浦添商業高校の生徒

西原グリーンセンターはシフト制の勤務のため、ビーチパーティーなどのイベントを開催することが難しく、拓南本社の皆様に毎年声をかけていただき、参加できることをうれしく思います。

企画から準備、当日の運営まで円滑に進めていただきました幹事の皆様、本当にありがとうございました。

第3回フットサル大会
拓伸会

8月

拓伸会は8月20日、第3回フットサル大会をうるま市具志川ドームで開催した。そこで、参加した拓南製作所営業部の伊藝知大氏に寄稿してもらった。

会場全体が拍手と笑いに

拓南製作所営業部　伊藝知大

今回、新入社員として初めて拓伸会フットサル交流会に参加しました。

初めて会うグループの先輩方や久しぶりに会う同期もいて、最初は緊張していましたが、楽しくフットサルをすることができました。

試合中のファインセーブや好プレーに会場全体が沸き、特に印象的だったのは、同じ拓南製作所の先輩のオーバーヘッドキックです。会場全体が拍手と笑いに包まれてとても盛り上がりました。

今回、フットサル交流会に参加して、普段の業務ではお話しする機会が少ない他社の方々とも笑顔で親睦を深めることができ、健康増進にもつながる良い機会になりました。

来年も、今年よりも多くの参加者でフットサル交流会が開かれ、拓伸会の発展につながる場になればいいなと思いました。



掲示板

2026年9月1日～10月31日
＊一部、未紹介分も掲載しています。

【資格取得】
〈拓南本社〉
島袋　緑　ビジネス文書技能検定試験1級　7月5日



「以前、取引先の方に『御礼状を参考にしています』と言われ、ドキッとしたことがあります。この言葉にはさまざまな意味が込められていると捉え、普段取り扱う文書作成を振り返る良い機会になりました。

これまで文面の確認をするのはもちろん言葉遣いにも気を使ってきましたが、私自身のビジネスマナーに失礼がないか、改めて勉強しなくてはと思いチャレンジしました。

本検定を通じて、正確かつわかりやすい文章作成の重要性を改めて実感し、適切な表現や論理的な構成を意識することで、円滑なコミュニケー

《8頁へ》

《7頁より》

ションと業務効率の向上につながると感じております。
勉強時間を確保するのが難しく途中諦めようと思ったことも多々ありましたが、踏ん張ってよかったです。これからは習得した知識を生かし、社内外で信頼される文書作成に努めてまいります」

・・・



田名俊徳　第二種電気工事士
8月14日

「第二種電気工事士は、一般住宅や店舗などの600ボルト以下の電気設備を工事するために必要な国家資格です。
試験は「学科試験」と「技能試験」の2段階で行われ、学科試験に合格した人のみが、後日行われる技能試験を受験できます。今回、令和8年度の第二種電気工事士上期試験にて資格を取得することができました。
拓南本社ビルの保守管理に活用できることと合わせ、自身の取得したい資格であったため、去年6月頃から独学で勉強を行い、2回目の試験にて合格しました。1発合格はできませんでしたが、ホッとしています。電気に対する知識や技能を、これから活用できるように努力してまいります」

・・・



河野エリ　産業カウンセラー
4月1日

「産業カウンセラーは、働いている上で人々が抱えるさまざまな悩みごとや困りごとを相談者が自分自身で解決していけるよう支援をする専門家です。
半年間講座を受講し、約1年かけて取得することができました。知識だけじゃなく実際にカウンセリングを実践しながら傾聴を学んでいきました。仕事をしながら講座を受けるのは大変と思われがちですが、実際はそんなことはなく、自分自身の話の聞き方の癖に気づいたり、相手を通して自分への理解を深めることができたのが何より楽しかったのと精神的な成長につながりました。
時には講師の方から厳しい言葉を伝えられたり、相手の話を理解できない、深めることができず悔しくて泣いたこともありましたが、さまざまな年代の同期がいて、私が最年少だったこともあり、たくさん励ましてもらいました。同期にとても支えられて合格することができました。それも含めて、仕事だけじゃなく人生においてとても大切なことを学べました」

・・・



入稲福怜　手話技能検定3級
25年9月28日

「このたび、手話技能検定3級に合格しました。手話を勉強するきっかけは、映画『コーダ　あいのうた』でした。映画の中で手話を使っている姿を見て、自分も手話を覚えてみたいと興味を持ったのが始まりです。
まずは指文字の勉強から始めて約2年間、6級から5級、4級、3級とひとつずつ挑戦しました。3級は日常会話ができる程度と言われていますが、それにはまだ及びません。試験合格後、東京デフリンピックを観戦した際、実際にろうの方とやり取りをしましたが、まだ手話についていけない自分の力不足を感じました。
また、手話の勉強を始めてから身近にも手話を使う方が意外といることを知りました。手話を学んだことで、周りの景色も少し違って見えるようになった気がします。これからも楽しみながら勉強を続け、いつか自然に手話ができるようになりたいと思います」

・・・

＊「あじまぁ掲示板」では、諸資格の取得〈合格〉情報をお待ちしています。原則として数カ月以内に取得した社員としますが、会員企業社員のモチベーションを上げるためにも、取得時期については許容範囲を広げて紹介する方針です。

連続鋳造で思い出すこと

黒島　善茂

拓南余話 30

上注法は、連続鋳造法移行へのステップとして取り組んだものだった。だから、断念しても、直ちに連続鋳造の検討をするように命じられた。
ただ、現在地では無理があり、他に工場用地を探さなければならなかった。
中城湾に工場団地ができるとしても、20年以上のスパンがある。
すると、創業者は「周囲を気にせず24時間作業可能で、土地の価格も比較的安い場所の目星をつけてあるので見に行こう」と言われた。
向かった先は西原村(現・西原町)。公道の東側はある程度開発が進んでいるが、丘陵の分水嶺までギンネムが繁茂していた。
踏査のため雑木を掻き分け、頂上まで登った。
創業者は全体を見渡しながら、突然「どうだここは」と言われた。
とっさに「ここなら大丈夫です」と答えたものの、埋立造成はかなり困難になるだろうと感じた。
半年ほど埋立造成をした頃、西原村から、公道より西側は工場用地区にしない旨、通達があった。そこは現在、「西原グリーンセンター」となっている。その経緯については機会があれば書くことにしよう。
ところで、本土復帰を目前にして共栄製鋼が連続鋳造機を設置するらしいとの情報が入ってきた。不確かながら当社が計画した内容と酷似していることに驚いた。
日本政府は、復帰特別国体や海洋博覧会などの沖縄開発計画を策定した。
大型工事の発注を控え、県外の大手ゼネコンが大挙進出、海洋博を中心とする工事が着工された。それによって県経済は72年の終盤から73年の秋口まで急激な高まりを見せ、鉄筋の需要も旺盛となって品不足をきたし、加えて中東戦争が勃発、オイルショックと相まって鉄筋価格も暴騰した。
こうした最中、共栄製鋼は東京製鉄から30名近い指導員を呼び寄せ、連続鋳造を稼働させた。
海洋博は期待されたものの盛り上がりに欠け、建設特需が終了するやその反動で観光・建設業が経営不振となり、倒産が続出、海洋博不況とさえいわれた。沖縄の起爆剤ならぬ自爆剤と揶揄された。
復帰して3年後の年末、深刻な経済低迷が続く中、良くも悪くもライバルの共栄製鋼が工場閉鎖となった。
同業者であるがゆえに一抹の寂寥感が残った。

（拓伸会　元名誉会長）



買収前の共栄製鋼全景（浦添）

編集後記

50回の節目を迎える「沖縄の産業まつり」が台風30号の影響で中止になり、開催に向けて準備を進めてきた拓南ブースも残念ながら設置取りやめになりました。ところで、この台風、10月19日現在の進路予想は、統合予測（台湾から大陸方面へ）とAI予測（琉球列島から九州方面へ）の違いが大きく、それが話題になりました。日に日に、気象庁の進路予想はカーブを描き始め、大空でもAIが実力を見せつけた観がありました。（鈴木）